

自治組織と学校の連携による年予算 1,000 万円の運営モデル (友遊いずみクラブ 栃木県宇都宮市)

1. 会員数は初年度 600 名、3 年目で 1,000 名へ

友遊いずみクラブは、人口約 1 万人、3,000 世帯ある宇都宮市泉が丘地区に、平成 16 年にできたクラブです。泉が丘地区は、もともとスポーツに熱心な土地柄で、自治組織もしっかりしていました。クラブは、地域の体育協会・自治会・子ども会など主に地域に根差した各分野の団体が協力する形で設立されています。

初年度の会員数は 600 名、種目数を増やしたことで翌年には 800 名、3 年目には 1,000 名を超えました。ピーク時は 1,400 名にのぼり、その後増減はあるものの、現在の会員数は 1,280 名程度に落ち着いています。会員内訳は子どもが 3 分の 2 を占めています。会員の活動種目の平均は、大人 2.5 種目、子ども 2.3 種目で、1 人で数種目を掛け持ちする活発な活動状況になっています。

プログラムの種目数は 32 あり、スポーツ教室、文化的な講座、イベントなど充実した内容です。会費は保険料込みの年会費で、大人 6,000 円、子ども 3,600 円、親子 10,000 円の廉価な会費となっています。教室等への参加費は実費ベースなので、年間最大で 2,000 円程度です。

会費収入は平成 22 年度決算時で 481 万円、決算時の年間収入総額 1,045 万円の 46% を占めています。市からの助成金が 255 万円あるものの、事業収入が 214 万円、寄付金や繰越金の 95 万円を入れると自主財源率は 76% にのぼり、健全な財政状況を実現しています。

設立当初から、クラブでは会員数 1,000 名の目標をもっていました。クラブがなぜ、順調に会員数を伸ばすことができたのか、その要因を探っていきます。

2. 小中学校の施設利用と学校との良好な関係が土台にある

泉が丘地区では小中学校が隣接して立地しているため、クラブでは小学校の体育館と中学校の格技場やテニスコートを利用することができ、1,000 名超の会員が活動できる「器」が確保されました。クラブ事務所は、ドアを開ければ小学校の体育館が目の前という絶好の場所にあります。子どもたちの元気な声が聞こえるクラブ事務所には常駐のスタッフもいて、まさに理想的な施設環境です。近隣にはスイミングクラブなど複数の民間スポーツ施設があり、クラブと類似するスポーツ教室が公共スポーツ施設でも行われています。しかし、徒歩や自転車で気軽に行けて馴染みのある学校に拠点があることが他にはないクラブの「強み」となり、1,000 名を超える老若男女が集まっています。

学校施設を使えるようになったのは、設立当初からクラブ副会長として小中学校の校長先生にお願いしたことが功を奏しています。また、設立より数年間は、既に学校を使っていた団体に対して、クラブと活動を共にする呼びかけと施設利用調整などを働きかけた成果です。

学校との良好な関係は、日頃からの「心がけ」の賜物です。例えば、学校から借りた物は必ず借りた時以上にきれいにして返すようにしたり、学校の先生方とのコミュニケーションをこまめ



にとるようにしたりしています。転勤した先生にも参加いただく機会や、先生と地域との交流イベントも意識的に行っています。

現在では、小学校施設の管理業務をクラブが請け負うことで、学校施設の空き時間を有効活用するとともに、先生方の業務負担を軽くしています。学校のパソコンをクラブが借り、クラブの備品を学校が借りるなど、施設以外の面でも共用関係になっています。学校がクラブに協力的な背景には、地元教育委員会がクラブへの協力を評価していることがあるかもしれません。

3. 体験で 80%が入るプログラムは子どものロコミで広がる

広報面では、設立当初の「総合型地域スポーツクラブを核とした活力ある地域づくり推進事業」委託費によりカラー印刷のパンフレットを作成して広範囲に配布したことが、現在でも住民のクラブ認知に役立っているようです。印刷費が十分でない現在では、一色刷りのシンプルなプログラム案内を作成し、前期・後期の年 2 回、自治会での回覧や地区世帯へ全戸配布をしています。

小学校でもクラブのチラシを配布してもらっています。生徒は約 1,000 名いますが、少子化の中で、泉が丘地区では児童数が増加中です。生徒にわたると家族が見ますので、自治会、全戸配布、学校の複数ルートから、クラブの情報は住民に漏れなく行き渡っていると思われます。

クラブでは、教室プログラムの 1 つに限って体験できるようになっていますが、体験すると 80%の確率で入会するそうです。今の親御さんは必ず体験してから入る傾向があり、プログラムを「体験」してもらうことの重要性がうかがえます。

子どもの割合が 3 分の 2 を占めるこのクラブでは、子どもの「ロコミ」で会員数が増えるとクラブの方は指摘し、子どもの間でも「ロコミ」が機能していることがわかります。例えば人気の中学生バドミントン教室には中学 1 年生が喜んで来ています。なぜなら、部活動であればシャトルを打たせてもらえないことが多い中学 1 年生でも、クラブの教室ではどんどんシャトルを打つことができます。そのような情報が子どもの間で伝わって会員が増えています。

小学生対象のフットサルもクラブで人気の教室です。クラブの活動で自信がついた子どもはスポーツ少年団へ行くという流れができ、スポーツ少年団の団員数増加にも効果をあげています。大人向けの教室では長年続けていると上手な人が多くなります。上手い人の中に初心者は入りにくいので、初心者向けの「入門」教室を新たに開設しました。これも結果的に会員数増加につながっています。

4. 役員の働きと指導者の自己研鑽

役員は 36 名いますが、日頃の運営は、役員の中から運営委員 16 名と 70 名の指導者で営まれています。この人数で、現在 1,280 名もいる会員の運営ができていますが、これ以上会員を増やすと、スタッフの疲弊やサービス低下につながる可能性もあります。

役員にはクラブ設立時に連携した地域団体のリーダーが多くいて、もともと地域から信頼を寄せられている人々が担っています。仮にクラブのプログラムやイベントに人が集まらないことがあっても、役員の声かけで人を集めることができる力をもつため、集客に困ることは多くないと言います。宇都宮市夏祭りの「宮っ子よさこい」には 100 人も集まり、イベントを通して非会員の方がクラブのファンになり、ファンは自分が参加できなくても知り合いをクラブに紹介してくれる有難い存在となっています。

普段は運営に携わっていない役員もいますが、役員は責任感と自覚をもって必要な時やいざという時に動き、成果をあげる頼れる存在です。一方、役員にとってクラブの存在は「私がいなければ」という「居場所」にもなっています。

指導者は、必ずしも資格をもった人ばかりではありません。しかし、月日がたつにつれて参加

者の要求水準が高くなることを察知して、日頃から各人で指導の自己研鑽に取り組んでいます。クラブでは、年1回、指導者の合同研修会を開催しています。クラブ理念の共通理解や、クラブで気持ちよく過ごしてもらうためにどうするか情報交換したり、指導者間の意思疎通を図ったりする機会になっています。

指導者の謝金は、9割が一律1回1,000円となっていますが、自分達で指導者を確保できない種目では、民間スポーツクラブの指導者に1時間5,000円を支払って来てもらっています。そのような教室は全体の約1割程度なので、会員から別途参加料金はもらっていません。各教室では、リーダーシップのある人に指導の役割が引き継がれています。

5. 子どもに人気！ 会員増に効果あり「大学生の活用」

クラブの魅力付けの1つに、「大学生の活用」があります。具体的には、地元にある宇都宮大学の先生方をお願いして、ゼミ生などの大学生をクラブに派遣してもらっています。バレーボールやフットサルでの派遣実績があり、多い年には年間20人位の学生がクラブの指導者となって活動しています。

子どもたちにとって、大学生の若い指導者はうれしいものです。少子化で兄弟姉妹が少ない時代に、大学生はお兄さん・お姉さんの存在です。大学生も、子ども達に親しみを覚えてもらえるよう自分の愛称を名札に記し、子ども達は大学生を愛称で呼んで関係を近づけています。親しくなった子どもたちは大学の学園祭に招待されるなど、交流を深めています。

体育系の学生にとっては、学んだスポーツや保健体育の知識・技術をクラブで活かすことができ、教員志望の学生にとっては、本物の子どもを相手にできる実践の場となります。

宇都宮市教育委員会と宇都宮大学との提携により、宇都宮市内のクラブからの「学生派遣」要請に応えられるようになってきました。今は大学の運動部ごとで携わっていますが、今後、大学の授業の単位に認定される可能性もあるそうです。現在は、クラブから「ボランティア証明書」を学生に発行して奨学金返還の免除等に役立っています。

大学生がクラブでボランティアをした場合、学生にとっては就職活動にも役立つ可能性もあり、活動の証明書がどのクラブでも発行できれば、「大学生活用」の仕組みとして他の地域でも導入できそうです。

6. 『信用』と『カッコよさ』のあるクラブ

数年前にクラブ拠点がある学校の近くに大型スーパーができ、ちょうど学校前の歩道は、買い物客による人通りが増えました。クラブの看板を見てもらう機会や身近に感じてもらう機会が増えたと言えます。

1,000名を超える会員がいることで、一般のスポーツ指導者からクラブへ指導の売り込みも出てくるようになりました。売り込みがもとで始まった器械体操の教室は、当初参加者が20名でしたが3年目には100名に成長しています。スポーツが苦手な子どもの親の間に口コミで広がり、確かな技術と指導力で、会員数を増やす効果をあげています。



左から前田氏、本間氏、アババ-久田氏、森田氏

良いことばかりのようですが、もちろん課題もあります。小学6年生が中学生になると部活動に入るため、クラブを辞めることが多くなります。年配者では老化が原因で抜けていくことが最近は増えています。

しかし、今や地域からは、「友遊いずみクラブに携わっているとカッコいい」との評価を得ています。地域の人々はクラブから声をかけられるのを待っている面があると言います。クラブの基盤が揺るがないのは、このような「信用」と「カッコよさ」が根底にあることがあげられます。

では、「信用」や「カッコよさ」はどこから生まれるのでしょうか。これまで何度も新聞やテレビに取り上げられていることもありますが、前述のように信頼のおける地域の人々が集まって、「日頃の小さな事を疎かにせず信頼を積み重ねる」ことがしっかりできていること、また、学校や大学を含む地域社会とギブ・アンド・テイクの関係をきちんと成立させていることが背景にあります。地域の行事で人が足りない時は、クラブから人手を提供しています。

「良いことをしているから協力してもらって当たり前」という一方的な姿勢ではなく、相手の必要としていること・困っていることに対して、クラブ側もできることをしています。クラブの専務理事でありマネジャーでもある本間秀雄さんは、「クラブに携わっていると、人脈ができ何かの時にお世話になる。社会勉強になる。」と、設立8年目の現在でも謙虚に話されていたのが印象的でした。

(取材日:平成23年9月28日)

【友遊いずみクラブ プロフィール】

1. 設 立 設立年月日：平成16年4月17日
2. 地 域 栃木県宇都宮市泉が丘地区：人口約10,000人
3. クラブ 会員数：1,280名（平成23年9月30日現在）
4. 連絡先 〒321-0952 栃木県宇都宮市泉が丘7-12-14 泉が丘小学校体育館内
TEL/FAX 028-662-1221
URL：<http://park19.wakwak.com/~izumigaoka/>
E-mail：izumigaoka@aw.wakwak.com